

株式会社SPソリューションズ  
 創業年：2006年6月  
 代表者：仁藤正平  
 事業内容：医薬品・食品の販売促進支援、CD・本の出版、オリブオイルの販売ほか  
 資本金：2,000万円  
 売上高：非公開  
 従業員数：非公開  
 所在地：東京都中央区日本橋人形町2-15-2松島ビル8階・9階  
 電話：03-5623-9307  
 URL：http://www.sp-solutions.co.jp/



1954(昭和30)年9月29日、宮城県仙台市で生まれる。卒業小中学校は仙台市立連坊小路小。大学と就職は京都で、11年前転勤で上京。ブルースハーブ担当として「おやじバンド」を楽しむ一方、元写真部の腕を生かし、日本橋経済新聞ではカメラマンとして活躍。大阪に夫人と次男・三男を残し、東京で長男・長女と暮らす。好きな店・おススメ：玉英堂の氷いしと壽堂の氷ようかんは手土産に大変喜ばれる。お散歩コースとしておススメなのは、甘酒横町界隈や浜町公園、久松公園。



# 東京 日本橋

## まちびとめぐりネットワーク 10

●日本橋めぐりの会 遠藤梨栄

日本橋界隈を舞台に、まちびとに取り組む人々とその活動などを紹介。まちを愛し、奮闘する「まちびと」の輪をリレー形式つなごう。



鉄造菩薩頭を安置する大観音寺：鎌倉時代、もともと鎌倉新清水寺にあった鑄鉄製観音像は、火災で崩れ、江戸時代に頭部のみ掘り出されて鶴岡八幡宮へ。明治9年、仏頭は現在の人形町大観音寺に移された。東京都指定有形文化財。毎月17日に公開される。

- カウボーイ
- 紳士服
- 日本料理
- 動物商品取引所
- 証券取引業
- 高級ガラス靴
- ホテル
- 信用金庫
- 百貨店
- コンパニオン



昨年夏に創刊し、地域に根づいてきた「日本橋経済新聞」のトップページ



日頃のストレスもすっかり解消される「日本橋ダンス温泉」。次回は2月28日開催予定



口コミで参加者が増えていく「ビジネスサロン365-SP」。写真は、好評のうちに終了した前回の「勉強会と蕎麦打ち会」

自らを雑用係と謙遜する仁藤正平さんが編集長を務める「日本橋経済新聞」は、日本橋地域の経済・文化情報を無料で発信するインターネット上の新聞だ。5年前、販促のコンサルティング会社を設立した仁藤さんは、日本橋を拠点に事業活動を行うなかで多くの人々との出会い、助けられてきたという。歴史と伝統あるまちでありながら、新参者も温かく迎え入れてくれる日本橋。そんなまちへの感謝の気持ちから、地元へ貢献したいとの思いで始めたのが同新聞だった。

現在18名ほどの地元の「日本橋好き」なボランティア記者が分担し、記事を投稿する。同新聞を始めたことで、「情報が集まり、まちを見る目も変わってきた」と自身の変化を語る仁藤さん。本業の傍らに行う取材は大変なことも多いが、人の優しさに触れる出会いもあり、喜びのほうが多い。

また、昨年オープンした「福の神サロン」(松島神社松島ビル9階)では、さまざまなイベントを企画する。瞑想とヨガを採り入れたヒーリングダンスの後、近隣の銭湯で汗を流すという「日本橋ダンス温泉」もその一つ。OLを中心に毎回十数人ほどが集まるが、

ともに汗を流し、食事をして帰る頃には皆、すっかり打ち解ける。2カ月に1回ほど開催している「ビジネスサロン365-SP」も人気の企画。経営者やサラリーマン、OL、大学生などが集まり、企業とお客さまとのコミュニケーション論「お客さま学」を学んだ後、ミニライブや蕎麦打ち会を楽しむ。多様な人間が立場を超えて集まれる「場」の中で、次のまちを担い、盛り立てていく人が自然と育っていく。「場づくりを通じて人づくりをしたい」それが仕事にもボランティアにも一貫する仁藤さんの思いだ。

どんなに可能性のある種があっても、それを蒔く畑がなければ芽は出ない。畑は耕し、水や肥料をやらねばならない。太陽の光をたっぷり浴び、のびのびと育ててこそ、花を咲かせ、実を結ぶのだ。生活、仕事、文化、まちのあらゆるところには、人が育つ場が必要なのだ。

### まちに人が育つ 場をつくる



「次回のまちびと」の塚田秀伸さん

どんなに可能性のある種があっても、それを蒔く畑がなければ芽は出ない。畑は耕し、水や肥料をやらねばならない。太陽の光をたっぷり浴び、のびのびと育ててこそ、花を咲かせ、実を結ぶのだ。生活、仕事、文化、まちのあらゆるところには、人が育つ場が必要なのだ。